



世界を揺るがす ジャパニーズベンチャー

043

敏腕経営コンサルタントとして独立 海外現地企業に特化したサービスを展開

リブ・コンサルティング 関巖 社長



Profile

1979年愛知県生まれ。2002年に東京大学教育学部を卒業。その後大手経営コンサルティング会社へ入社すると、トップの業績を上げて同社史上最年少で取締役に就任。2012年に独立を果たし、株式会社リブ・コンサルティングを設立。代表取締役に就任。

「日 本企業の海外進出を支援するのではなく、海外の現地企業に対しジャパンプオリティの経営コンサルティングを提供しています」

こう語るのは総合経営コンサルティングを行うリブ・コンサルティングの関巖社長だ。国内では東京と大阪、その他海外では韓国とタイに支社を出しており、中堅中小・ベンチャー・大企業とあらゆる組織にむけて経営戦略やマーケティングのコンサルティング支援を行っている。現在90名超の社員

を率い、およそ300社の企業をクライアントに持っているという。大学卒業後、関が入社したのは大手経営コンサルティング会社だった。厳しい環境とは知っていたものの「実力主義」というその企業体質に興味を持った関は、一も二もなく飛び込んだ。とはいえ、入社後すぐに担当した子会社のサポート業務ではなかなか成果を上げられず苦しんだという。

「経営とは何か、自分が何に優れていて、何に時間を使うのか。経営コンサルタントとして多くの経営者の側に立つことで徐々にそうした、経営者の実情を知ることができました。気づけばいつの間にか数字もあがるようになっていました」

徐々に頭角を見せ始めた関は、当時在籍していたコンサルティング400名の中でトップ賞を獲得。また社内全50チームの中でトップマネージャ賞を受賞し、2009年には同社史上最年少で取締役へ就任。翌年には専務取締役に就任し、会社を代表するコンサルタントとして成長を果たして

「現地の言葉や商習慣をしっかりと

いったのである。そんな成長の階段を駆け上がる関の脳裏で、独立という言葉が徐々に大きくなっていった。

「数字のみをあげるのではなく、もっと社会を変えるようなことをしてみたいと思いました。経営コンサルタントとしてその実現を考えた時、会社に留まるのではなく自ら独立してそれを目指そうと考えたのです」

こうして2012年7月にリブ・コンサルティングを立ち上げた関だったが、同時に新たな取り組みにも着手した。それが海外の現地企業向けの経営コンサルティングだ。海外支援を行う経営コンサルティングを謳う企業は数あれど、その多くは日本企業の海外進出を支援するというものだ。その戦場が日本なのか海外なのかという違いはあれど、相手にするのは同じ日本企業。一方で、経済成長が著しいアジア諸国では、日本の卓越した経営ノウハウを知りたいというニーズが非常に高い。関が狙ったのはそうした海外企業に向けた経営コンサルティングだった。

「現地の文化や商習慣を熟知し、言語的な壁なく支援を実施できる経営コンサルタントは意外なほど少なく、だからこそ当社がそこで市場を開拓できているのです」

「海外進出」と言えば今や大企業だけでなく中小企業も連呼するワードだ。だが自分たちの土俵を海外に移すだけではなく、サービス自体までを現地に染め上げた同社の躍進は、今後ますます加速していくことだろう。